東住吉中学校　校長室だより　　令和3年度 No.38

# ひまわり

令和４年２月21日（月）

## 「ロコ・ソラーレ」に学ぶ

夏のオリンピック同様、北京冬季オリンピックも大いに楽しませてくれました。１５競技、全ては観戦できませんでしたが、テレビ画面の向こうで、すばらしいパフォーマンスを繰り広げる各国の選手から、感動と元気をもらいました。

昨日は女子カーリングの決勝戦が行われました。日本代表は北海道北見市が拠点の「ロコ・ソラーレ」。皆さんの中にも、テレビ観戦した人がいたことでしょう。対戦相手は、平昌オリンピック（2018）の３位決定戦で破ったイギリス。今大会では、予選リーグで日本が負けた因縁の相手です。

カーリングは、ストーンを正確に投げることができたとしても、それだけでは勝つことができない競技です。緻密な戦略を立て、相手の心理を読み、その場の臨機応変な対応が求められる競技です。それ故に、氷上のチェスを表現されることもあります。イギリスは、４年前の雪辱を果たすため、徹底して日本の戦略を研究してきたことでしょう。

結果は、イギリスが見事な試合運びで日本の動きを封じ込め、金メダルを手中に収めました。日本は銀メダルでしたが、日本カーリング史上初の快挙でした。「ロコ・ソラーレ」あっぱれです。

メダルセレモニー後、世界に元気と勇気を与え続けたメンバーは、報道のインタビューに次のように答えていました。

「こんな悔しいメダルあるんだ、というぐらい悔しさはあるが、**メダルの色以上に、この４年間やってきったものであったり、このチームでトライしてきたこと重さの方が勝つ。**この銀メダル、今は悔しいけど、やがて私の宝物になる」

「**どんな結果であったとしても**、自分たちをほめよう、**やってきたことを認めようって思ってきたので**、悔しい気持ちは忘れて**心から喜びたい**と思う」

「もっといい試合ができたと思う中で、負けてすぐのメダルセレモニーだったので、素直にメダルを受け取れない自分もいる。しかし、**４年前からみんなでしっかり時間を使って成長できた証しがこの銀メダルかと思う**」

このインタビューを聞きながら、仲間とともに、一つのことに真剣に取り組むことの大切さを、改めて感じたのは私だけではないでしょう。このことは皆さんの中学校生活にもあてはまることではないでしょうか。

余談になりますが、カーリングでは審判は基本的に試合に介入しません。選手同士の信頼や相手への尊敬のもとにゲームが進行します。競技規則にも、**「勝つためにプレーしますが、決して相手を見くだしたりしません。真のカーラーは相手の気を散らしたり、相手がベストを尽くそうとするのを決して妨げたりしません。不当に勝つのであればむしろ負けを選びます」**とあります。このことも、この競技の大きな魅力です。